

ESD レポート

Education for Sustainable Development

vol. 9 2006 秋
2006年11月15日発行

NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。社会、環境、経済、文化の視点から、人類が直面するさまざまな課題に取り組み、公正で豊かな未来をつくる「持続可能な開発」—— それを実現する力を、世界各地に生きる私たち一人ひとりが学び育むことをめざして、「国連持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年)」が、2005年からスタートしています。

福祉教育



小学生が高齢者の自分史をつくる。発表会前の七夕飾り

青少年教育



ガールスカウト「おてんば世界博」キャンプオープンデーにて

ジェンダー教育



JICAの研修生が保育園におけるジェンダー教育を視察

青少年教育



ボーイスカウト 立ちカマドを使って野外料理

特集 ESD シナリオづくりプロジェクト その1

〇〇教育からのメッセージ

分野を超えて
大切にしたい価値観

目次

■特集

ESD シナリオづくりプロジェクト その1 〇〇教育からのメッセージ p2

■シリーズ 学びの場をデザインする 1

浜松に生きる日系ブラジル人・ペルー人高校生によるミューラル・プロジェクト p4

■ ESD なんでも相談室 1 p4

Q.ESD のメリットって何ですか？

■ ESD 基本用語集 9 p5

ジェンダー 平和教育

■ ESD INFORMATION p6

《地域》ESD をすすめる自治体、続々と

《国際》アジアの仲間たちとの共同作業が始まる AGEPP 第1回国際会議を開催

《政策》ESD-J の5年後、10年後をどう構想するか？

■ ESD-J だより p7

2006年夏から秋の活動報告

「ESD の10年促進事業」がスタート

■ ESD へのメッセージ! p8

東京都教育庁社会教育主事 梶野光信

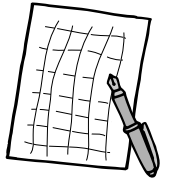
NHK 制作局ディレクター 窪田栄一

(社)日本ユネスコ協会連盟広報室長 川上千春



〇〇教育からのメッセージ

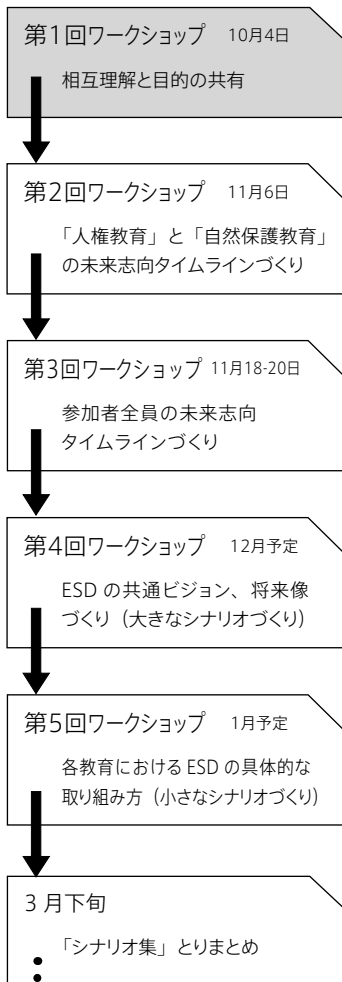
～分野を超えて大切にしたい価値観



環境教育や福祉教育、人権教育、平和教育など、地球や地域の課題に取り組んでいるさまざまな教育活動。活動内容は異なっても、そこには「よりよい未来を創りたい」「社会変革を担う仲間を増やしたい」といった共通の思いがあります。その思いにこそ、ESDのエッセンスを紐解く大切な手がかりがある、とESD-Jは考えました。

2006年10月。さまざまな教育活動の担い手がチームをつくり、各教育へのESDの活かし方を整理するシナリオづくりプロジェクトがスタートしました。

シナリオづくりプロジェクトのすすめ方



「シナリオ集」の活用へ

〇〇教育に携わる担い手が集う

人権教育、福祉教育、環境教育、食農教育、青少年育成、国際理解教育、平和教育、キャリア教育、ジェンダー教育に携わる9分野14団体（ESD-Jを含む）20名の方々による、共同プロジェクト。

5回のワークショップを通じて、それぞれの〇〇教育にESDをとけ込ませるためのシナリオをつくります。今回の特集は、その第1回目の報告。今後、東京や清里でワークショップを積み重ね、その成果を「シナリオ集」として『ESD-J活動報告書2006』にとりまとめる予定です。

シナリオづくりのねらい

ワークショップでは、ESDにつながる教育活動に取り組む全国レベルの団体がチームをつくり、お互いの教育の本質的な部分を共有し、「ESD」のあり方を継続的に議論します。その過程のなかで、分野を超えて「ESDとはなにか?」「ESDを各分野の教育に盛り込むには?」ということが、次第に明らかになってくるでしょう。

その成果である「ESDのシナリオ」は、各分野の活動において、ESDとどういうスタンスで付き合っていくのか、次代の担い手育成にESDをどう位置づけるのかなど、重要なヒントが得られるものになりたいと思います。

価値観の共有とESDのエッセンス

第1回のワークショップは、このプロジェクトでの共通目標をもつとともに、お互いの教育分野の理解というのが最大の目標でし

た。当日は、本プロジェクトのねらいやすすめ方を確認した後、ファシリテーターの嵯峨さん、福田さんの進行で、フリップボードディスカッションを行いました（次頁上「フリップボードディスカッションの流れ」参照）。

個々の人たちがその分野の教育に携わるきっかけから始まり、それぞれの取り組みや代表的なプログラムを紹介。意外とお互いの活動について知らないこともあり、徐々に理解がすすんでいきました。

「私が〇〇教育で伝えたいメッセージは?」——4つ目の質問が参加者へ提示されたとき、フリップに印象的な言葉が並びました。そして、〇〇教育で大切にしている「思い」が、それぞれの言葉で語りだされます。3時間半のワークショップで、お互いの価値観への共感がもっとも高まった瞬間でした。

それぞれの言葉は、すべてが持続可能な社会、そのための人材育成にとっても重要な視点が含まれています。多くは、分野を超えて共有できる内容でした。右の18のコメントがそのメッセージ。みなさん、これらの発言がどの教育分野の方の言葉かを想像してみてください。

プロジェクトへの期待

参加者は、これからは始める他分野からの学合いを楽しみにしていました。同時に、ESDを実施していく具体的なシナリオづくりにも意欲的です。初回のワークショップはお互いの顔合わせ以上に、参加者同士がお互いの価値観を認め合い、このプロジェクトへの期待を高めるものとなりました。

本プロジェクト参加メンバー (敬称略)



人権教育

アジア・太平洋人権情報センター
前川実



福祉教育

全国社会福祉協議会
河辺裕子



環境教育

エネルギー環境教育情報センター
大内敏史



環境教育

エネルギー環境教育情報センター
吉田公武



環境教育

日本環境教育フォーラム
若林千賀子



環境教育

日本環境教育フォーラム
小堀武信



環境教育

日本ネイチャーゲーム協会
渡辺峰生



環境教育

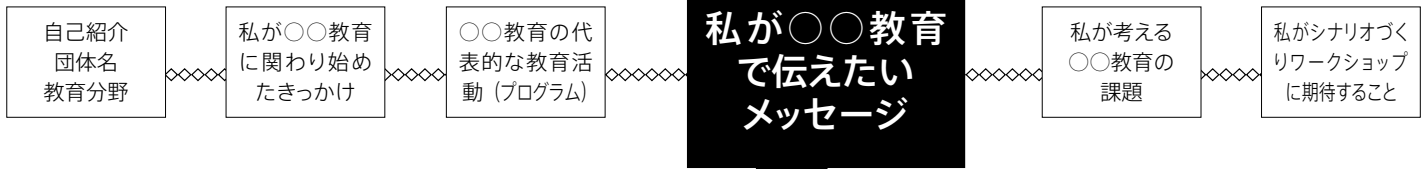
日本ネイチャーゲーム協会
藤田航平

ESD シナリオづくりプロジェクトのねらい

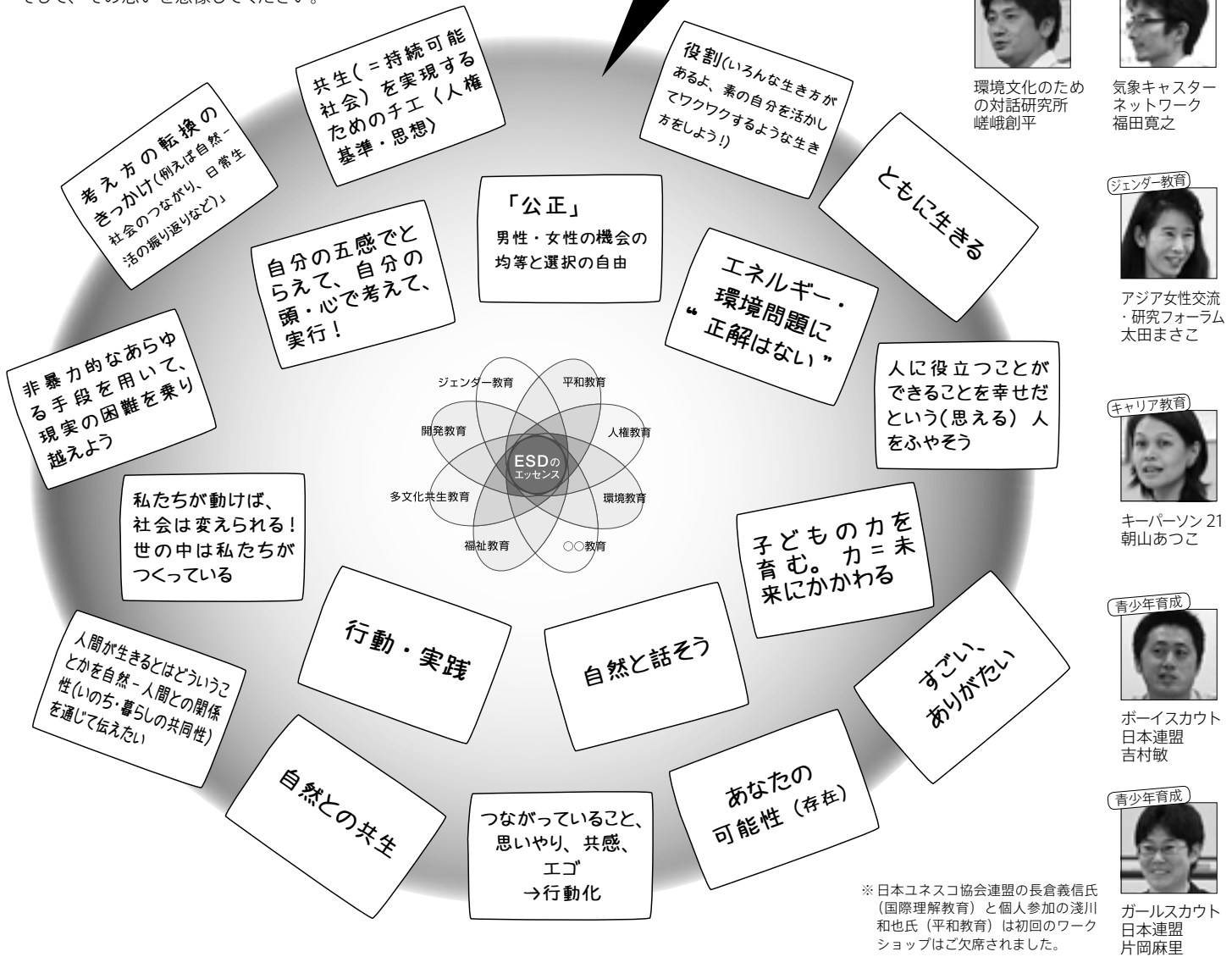
- ◆ 各教育分野の全国組織の担当者が分野を超えたネットワークを強化する
- ◆ 「ESD とはなにか?」「ESD を各分野の教育に盛り込むとはどういうことか?」という疑問への回答を、シナリオ集という形で整理する
- ◆ 各分野において ESD とどういったスタンスで付き合っていくのか、次代の担い手育成に ESD をどう位置づけるのか、ヒントを得る
- ◆ 各教育分野を通じて、全国の教育の担い手へ ESD を普及促進する



フリップボードディスカッションの流れ



これらのメッセージが、どの教育分野の方のものか、考えてみてください。そして、その思いを想像してください。



※ 日本ユネスコ協会連盟の長倉義信氏(国際理解教育)と個人参加の浅川和也氏(平和教育)は初回のワークショップはご出席されませんでした。

<p>環境教育 日本自然保護協会 志村智子</p>	<p>環境教育 自然体験活動推進協議会 内村美紀</p>	<p>環境教育 日本野鳥の会 安西英明</p>	<p>食農教育 農山漁村文化協会 清水悟</p>	<p>平和教育 (個人参加) 竹内久顕</p>	<p>事務局 ESD-J 村上千里</p>
-----------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	-------------------------------

次号の予定
次号は、第2回、第3回のワークショップの成果をお伝えします。さらに深い学合いと、未来に向けた取組みについて考察していきます。どうぞお楽しみに。

浜松に生きる日系ブラジル人・ペルー人高校生による ミューラル・プロジェクト

NPO 法人 浜松 NPO ネットワークセンター

ミューラルとは、コミュニティの「問題」「希望」「誇り」などのメッセージを込めて、地域の人々とともに公共空間に絵を描く表現芸術。9名の日系ブラジル人・ペルー人高校生たちが、困難を克服して学ぶ外国人高校生の存在を、同じ境遇の子どもたちや市民へ伝えようと、巨大な壁画づくりに取り組み、多文化共生のまちづくりに踏み出しました。

はじめの1歩

一 移住労働者の子もたちが抱える課題

浜松市では人口の4%、23,000人が外国人移住労働者とその家族です（※2005年4月、旧浜松市統計）。外国籍の子どもは義務教育の対象とならず、また金銭的な問題や言葉の問題が障壁となり、高校への進

学率はきわめて低く、工場労働者以外の職業を得ることが難しいのが現状です。

「このままでは貧困の再生産を繰り返すだけ。外国人も勉強すれば将来が開ける、“当事者のロールモデル”が必要だ」。浜松 NPO ネットワークセンター（通称：N-Pocket）の代表、山口祐子さんはそう考え、ミューラルをその突破口にして若者

のリーダーを育てようとのこのプロジェクトを起こしました。そして、市内の高校を一軒一軒訪問し、校長先生の理解を得ることから始め、日系ブラジル人・ペルー人高校生の参加者を集め、協力者として美術の先生と美術部部員の参加を得て、2003年春にこの活動がスタートしました。

(写真下・左) さまざまなポーズを撮影し、モチーフを下絵に表現していく

(写真右) のべ160人が参加した、コミュニティ・ペインティング・デイ



ESD なんでも相談室①



お答えします

ESD という考え方をきっかけにして、地域活動をしているさまざまな人や組織がつながる場をもてるということではないでしょうか？とくに環境や福祉、子育て、人権、地域産業の活性化など、それぞれの課題をもって活動している人たちは、同じ地域にありながら、まったく別々に活動をしているケースが少なくないと思います。それらの人たちが ESD というキーワードで集い、多様な価値観とノウハウをもちよって、地域の未来を考え、創造する取組みが全国で広がっています。

※質問内容やご意見を事務局にお寄せください。

ESDを 知ろう



UNESCO ESD マスコット「DDくん」

学びのデザイン

— 壁画の作成プロセスが学びの場

導入として参加メンバーは「演劇ワークショップ」や「貼り絵」の創作を通して、「仲良くなること」「表現すること」を体験しました。次に、お互いのライフストーリーを聞き合いました。どうやって日本に来て、どんな困難があったか、それをどう克服したか、どうやって高校に入学できたか、これからの夢や進路の希望などについて、これらを意識化、顕在化してメッセージにまとめていく作業はとても大変でしたが、誰に何を伝えたいのか、何を盛り込みたいのかが徐々に明確になっていきました。

夏にはサンフランシスコを訪れ、商店街や小学校の壁に描かれたミューラルを見学、ミューラル・アーティストのケンダル・オウさんから制作方法や表現方法などを学びました。表現したいことをポーズで表し、写真を撮って絵のモチーフにし、壁画全体の下絵をつくっていく、下絵づくりの作業からは日本人の美術専攻の生徒たちも大いに活躍しました。また、巨大な壁画に使

う画材は自分たちで「こういうメッセージを絵に描くので、画材をください」と寄せ書きした手紙を企業に送り、5社から協賛を得たそうです。

そして、2005年9月、市内の大学と高校で3日間「コミュニティ・ペインティング・デイ」を開催、子どもから大人まで、のべ160人の人々が壁画ペインティングに参加しました。いろいろな人が「一緒に色を塗る」という時間は、さまざまなコミュニケーションを生み出します。多くの人が、身近にしながら接することの少なかった日系の高校生たちの境遇を知り、彼らが抱えている悩みや希望に気づくことができました。

そしてようやく完成した壁画には、祖国での家族との思い出、乗り越えた困難、彼らの希望＝「あきらめないで」「今が学ぶとき」「あなたはひとりじゃない」「夢に向かって」というメッセージが見事に表現されました。その作品は静岡文化芸術大学の学園祭や国体イベントの背景としても活躍し、「国立民俗学博物館」にも展示されました。

学びの成果

— ミューラル・プロジェクトから生まれたもの

ミューラルは参加した学生たちに「リーダーとしての自覚」と、「ともに行動を起こす仲間」をもたらしました。山城口ベルト・アレックスさんは現在大学生。このプロジェクトの参加者4名とともに外国籍の高校生たちのサークル「AJLAN」（日系南米わかもの協会）を立ち上げ、「母国語教室」や「進学相談会」などのアイデアを、N-Pocketのサポートを得て、ひとつずつ実現しつつあります。

参加者の声

— ミューラル・プロジェクトに参加して

山城口ベルトさん

「私たちはたくさんの方の力でミューラルという体験ができました。私も周りの人を助けられるようになりたい。私たちと同じ困難を繰り返さないために、私たちから始めては、と思っています」

(取材報告：村上千里)



完成した長さ11メートルの壁画

NPO法人 浜松 NPO ネットワークセンター (N-Pocket)

地域が抱える課題を当事者（子ども・障害のある人・在住外国人・高齢者など）とともに事業化して、多様な市民が参加できる活動スタイルを展開する NPO。

〒432-8021 静岡県浜松市佐鳴台 3-52-23

TEL&FAX 053-445-3717

<http://www.n-pocket.jp/>

※ ESD-J の WEB サイトでは、本事例の詳細な記事を掲載する予定です

ESD 基本用語集 vol.9

ESD を読み解くためのキーワード。こんな言葉も実は ESD につながっているのです。

ジェンダー

生物的な性の違い (sex) に対して、社会的・文化的に規定されている性差をジェンダーと呼ぶ。ジェンダーという言葉は、性差別につながる社会的につくられた「男らしさ」「女らしさ」に、敏感に気づく視点を私たちに与えてくれる。その重要性は、1995年の北京宣言でも確認された。

性の違いに由来する固定的な観念にとらわれずに、能力や個性を豊かに伸ばす社会の実現にも、ジェンダーに敏感な視点は欠かせない。だが今日では、ジェンダーという用語自体の使用を制限する動きがある。このことがジェンダーについて自由に考え、学ぶことの制限につながることを危惧する声もある。(中村香・野田恵)

平和教育

日本の平和教育は、終戦後、「教え子を再び戦場に送るな」というスローガンとともに「反戦・反核教育」として始まった。平和教育の出発点は憲法と教育基本法であり、「平和のうちに生存する権利」をすべての人が行使できるようになることを使命とする。世界的にもユネスコ憲章(1945)において基本的人権および自由の尊重が平和実現への道筋であることが謳われている。

日本でも、被爆国としての平和教育のみならず、東アジア地域の平和構築、そして世界全体の平和、正義を求める平和教育への転換が求められている。(上條直美)

地域

ESD をすすめる自治体、続々と

地域ネットワークプロジェクトチームリーダー 森 良

ESD-Jの活動も4年目に入り、新たな活動のステージを開くことが求められています。これまでは、やろうという意志をもつ市民やNPOが地域でネットワークするということが主でした。これからは、それらの人々が自分たちの地域の自治体や企業、他のNPOに働きかけていくことが中心的課題になります。なかでも、自治体の動きをつくりだすことが重要です。

ESD日本実施計画は、自治体の役割についてこう述べています。

「地域の総合計画をはじめとする各種

の計画に持続可能な開発の考え方を織り込む」「ローカルアジェンダを新たに策定または改定して、持続可能な地域づくりに取り組む」「これらの中にESDに関する実施計画についても位置づける」。

大阪府豊中市では、これらを具体化するべく、「ESD庁内連絡会」が発足しました。座長は、生涯学習推進課長で、教育委員会、人権、子育て、環境などの部局のほか、男女共同参画センター、国際交流協会、社会福祉協議会などの外郭団体も参画しています。2004年2月24日のシンポジウムの成功に向けて、市民ベースの「ESD

とよなか」との合同会議も始まりました。

東京都日野市でも、市役所職員と市民が積極的に参画し、「ESDひの」がたちあがりしました。これまでの市民参加の流れの真ん中に、持続可能性の柱を据えた活動へと発展させようとしています。

鹿児島県垂水市では、来年度策定の第四次総合計画に向け、鹿児島大学公開講座をベースに、「ESD自然学校」のたちあげや地域防災マップづくり、自主防災組織づくりを担うリーダー養成などがすすめられています。

地域PTは、こうした動きを他の自治体

国際

アジアの仲間たちとの共同作業が始まる

AGEPP 第1回国際会議開催

アジアESD推進事業 (AGEPP) プロジェクトチームリーダー 大前 純一

アジア各地でのESDへの取組みを収集・共有する「アジアESD推進事業・実践交流ウェブサイトの構築と実践ハンドブックの作成」(略称AGEPP:トヨタ環境活動助成プログラム)が、いよいよ動き始めました。アジア各地に呼びかけた結果、6カ国のパートナー団体を確定。第1回国際会議を8月4日から6日まで東京で開いたのに続いて、アジア各地で事例収集作業が始まっています。

「AGEPP」(Asia: Good ESD Practice Project)の第1回国際会

議には、韓国ローカル・アジェンダ21協議会(KCLA)のデニス・ユンさん、中国・自然之友のリ・チエさん、フィリピン・Environmental Broadcast Circleのエリザベス・ロハスさん、インドネシア・BINTARIのフェリ・プリハントロさん、インド・Centre for Environment Education(CEE)のアトゥール・パンジャさん、それにネパール・NRC-NFEのディル・シュレスタさんが参加しました。

4日の会議では、ESD-Jの阿部治代表理事が歓迎のあいさつをした後に、各国での取組み状況などを報告。アジアの各

国で取り組まれているさまざまな事例のなかから、互いに役立つ事例を共有する意義などを話し合いました。

5日には、ESDで多彩な取組みをしている東京都日野市を訪問。都市近郊の住宅街と元からある農家などが、ゴミと堆肥と野菜の循環をつくりだす試みをしているようすを視察しました。

3日間の議論を通じて、それぞれの地域でESDへの多様な取組みがあり、同時に稲作文化を軸とした共通点も少なくないことがわかり、今後とも積極的な情報共有をすすめることで意見が一致しました。

政策

ESD-Jの5年後、10年後をどう構想するか？

～中長期戦略の

政策提言プロジェクトチームリーダー 池田 満之

ESD-Jでは、理事会での中長期戦略の議論をもとに、会員をはじめとした幅広い人々の声を聞き、ともに議論し、日本のESDの推進に向けてのESD-J中長期戦略を策定しようとしています。そこで、たたき台づくりのもととなる、理事会での議論を簡単に報告します。みなさんのご意見ご提案を、政策提言PTまでぜひお寄せください。

今後3年間の活動は、地域に重点をおき、地域におけるESDのモデルづくりに取り組みます。そこで培ったノウハ

ウと仕組みを政府や自治体に政策提言していきます。

なかでも注目すべきは、日本における「まちづくり」実践の蓄積。世界に類のないESD実績の宝庫ともいえますが、これまではSD(持続可能な開発)の視点が強調されるわりに、E(教育)の役割に重点をおいた報告は、あまりなされていないようです。日本のSDであるまちづくりを教育の視点から発信して、ESDの価値や役割を広げたい。また、理論的な面でもESDのなかでのEの役割を見直す契機としていき

たいと考えています。

現在、ESD-Jでは、環境省のESD促進事業の全国事務局として、各地のESDモデルづくりに間接的にかかわってはいますが、このほかに、ESD-Jが意欲的な自治体などと直接、連携をしてモデルづくりに取り組み、コンサルティングおよびコーディネートを担うことで、全国各地でESDの広まりや深まりを加速させていきます。

また、ESDの推進にあたっては、評価の視点(指標)づくりも大切です。国際的

ESD-J だより

2006 年夏から秋の活動報告

へ波及させるとともに、さらに広域圏での地域ブロック活動を強化することで、地域がお互いの活動を支え合っていく基盤を整えていきます。現在、すでに地域ミーティングを実施した地域での、第2ステップとなる活動の促進に力を入れているところです。第2ステップは、関東、北信越、岡山、日野の4カ所を予定。今年度の地域ミーティングは、高知県、土気（千葉県千葉市）にて開催済み、今後、貝塚市（大阪府）、水俣市（熊本県）、垂水市（鹿児島県）、石川県、松戸市（千葉県）で開催します。



ESD-J は、このプロジェクトのために阿部代表理事らで構成する運営委員会を設置し、アジア各地の教育事情に詳しい専門家らによる助言を受けながら、2008 年までの3年計画でアジア各国の ESD の事例を収集し、多言語のウェブサイトなどを舞台に、情報共有と交流を深める予定です。

策定に向けて

な指標づくりの動きにも学びながら、今後、日本における指標も検討していきたいと考えています。

今後、これらの活動を3年間取り組み、ESD の具体的な方法や効果、サポート機能を抽出していきます。また、政府・自治体への政策提言や国内外の情報発信にその成果を反映させて、全国に ESD を広め、定着させていきたいと考えています。

6月14日-15日 アジア協力対話（ACD）第3回環境教育推進対話共催
仙台市および松島町にて、外務省主催のアジア協力対話（ACD）第3回環境教育推進対話が開催され、ESD-J が共催しました。「国連持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」をテーマとし、アジア諸国の取組みについて意見交換するとともに、日本の ESD の10年の実施計画を公表しました。

6月18日 2006年度通常総会/2006年度第1回理事会開催
2005年度事業・決算について報告し、2006年度事業計画および予算、定款の改定などについて承認されました。また理事会では代表理事、副代表理事の選出、PT体制の検討を行いました。

8月4-6日 AGEPP 第1回国際会議開催
アジアの6カ国のパートナー団体からの参加者とともに、アジアの各国で取り組まれているさまざまな事例のなかから、ESDの視点や枠組み、事例を共有する意義などを話し合いました。8月4日夜には、ESD-J 会員と、各国参加者との交流会を開きました。

10月4日、11月6日 第1回、第2回 ESD シナリオづくりプロジェクト開催
環境教育、人権教育、福祉教育などの地球の課題に取り組む教育分野の全国組織9分野14団体の担当者が集まり、ESDを各教育のなかで活かしていくためのシナリオづくりのプロジェクト(全5回)がスタートし、第1回、第2回が開催されました。

10月7日 2006年度第2回理事会開催
地域における ESD の実践的な成果をあげることを重点課題とし、その成果を国際的な連携、政策提言へ反映させるという中期戦略のビジョンを議論しました。

10月21日 鳥取で環境教育を語ろう共催
来年、鳥取で開催される日本環境教育学会第18回大会のプレイベントとして、18回大会実行委員会等と共催、県内の環境教育に関心をもつ学生、一般市民、学校教育、社会教育、NPO など関係者の方々が集まり ESD をテーマに交流を深めました。

10月21日 関東広域圏地域ブロックミーティング開始（地域支援プロジェクト）
ESD 推進を図るコーディネーター育成のための地域ブロックミーティングの第一弾、埼玉でのイベントが開催されました。このあと、栃木、神奈川、千葉と関東広域圏で、一連のワークショップが開催されます。

10月22日 土気（千葉市緑区）地域ミーティング共催（地域支援プロジェクト）
市民による産廃撤廃を実現した土気で、緑の環・協議会との共催により、地域ミーティングを開催しました。

11月1-2日 環境省 ESD 促進事業 キックオフミーティング開催
ESD-J が全国事務局を受託している、ESD 促進事業の開催地10箇所が決定しました。事業のスタートに際し、各地の担当者が集い、それぞれの課題や目標に関して共有を図りました。

11月3-5日 ESD-China（ESD 中国民間協力ネットワーク）ワークショップに参加
今年7月に設立された中国の ESD ネットワークが、ESD のあり方やネットワークのすすめ方について議論するワークショップを北京で開催しました。日本からは ESD-J を含め4名が参加し、日本での ESD 活動の紹介と意見交換を行いました。

「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」がスタート

トピックス

前号で紹介した環境省 ESD 促進事業が本格的にスタートしました。この事業は、地域に根ざした ESD 事業を企画・実施し、事業終了後も当該地域での ESD を継続する仕組みを生み出すことに取り組むモデル地域を募集し、支援するものです。ESD-J はその全国事務局として、各地の事業の支援と成果のまとめを担っています。

公募には、全国から75件の応募があり、審査の結果、10地域（北海道当別町、宮城県仙台広域圏、静岡県三島市、山梨県須玉町、江戸前の海、愛知県春日井市、大阪府豊中市、兵庫県西宮市、高知県柏島、福岡県北九州市）が採択されました。11月1～2日にはこれらの地域が一堂に会しキックオフミーティングを開催し、これから年度末までの5ヵ月間で地域の ESD 推進体制づくりとアクションプランづくりに取り組みます。

ESDへのメッセージ!

地域からの教育改革をすすめていきましょう!

東京都教育庁社会教育主事 梶野 光信

21世紀のキーワードは「持続可能な社会づくり」です。グローバルな視点から具体的地域課題を解決する力をつけることが必要です。次代を担う子どもたちに求められるのは、学校で教わる形式的な知識の習得ではなく、新しい価値を創造するための知識を体得することです。そこでは地域での「体験」が重視されます。「体験」こそ、新たな知識を生み出す源泉です。これを私たちは「地域教育」と呼んでいます。地域住民、企業、NPO、行政が一体となって、子どもたちに新しい価値を創造する場（地域教育プラットフォーム）づくりに、私たちは取り組み始めたところです。ESDは、地域からの教育改革の基本に据えられるべき理念であると私は考えています。



梶野 光信
(かじの みつのぶ)

1967年1月21日生まれ。東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課社会教育主事。行政の施策・制度・予算が地域コミュニティレベルにおいて最も有効に作用するための社会的受け皿(社会的ネットワーク)づくりをどのようにすすめるか、日々「考え中」です。

私たちがESD-Jに入ったわけ

自分・世界・地球の全体像をとらえる教育番組を

NHK制作局ディレクター 窪田 栄一

若い人たちはテレビや雑誌など多くの情報にさらされ、学校でもいろんなことを学びます。しかしそうした断片的な知識や情報から、自分が生きる世界の全体像やすすむべき未来へのビジョンを思い描くことは困難です。私は環境問題などに関心をもちテレビ番組をつくってききましたが、個別の問題に警鐘を鳴らすだけでは人類の危機に対処できないと感じ、ESDに興味をもちました。

若い世代が、環境も社会問題も平和もつながりあったものととらえ、地球・世界の全体像と、そのなかでの自分の位置を了解できるような番組をと思い、この春から「地球データマップ」を放送しています。ESDの映像教材として、ぜひいろいろな場面で活用してもらえたらうれしいです。そしてESD-Jのみなさんの活動取材させていただいたり、番組の活用法のアイデアなどを教えていただければと思っています。

窪田 栄一 (くぼた えいいち)

NHK制作局学校教育番組部ディレクター 東京大学工学部卒業。東京・名古屋で科学番組や若者向け番組など制作。今年4月から、おもに中学高校向けに南北問題や環境、平和などを扱う教育番組「地球データマップ」(教育TV木曜午前11:30-11:50)を放送中(<http://www.nhk.or.jp/datamap>)。来春にテキストも出版予定。



草の根の運動を、できることから

(社)日本ユネスコ協会連盟広報室長 川上 千春

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから人の心の中に平和の砦を築かなければならない〜」このUNESCO憲章に感銘を受けた人々により、UNESCO加盟をめざした戦後間もない草の根の運動が、日本ユネスコ協会連盟の礎となっています。

現在は、識字教育支援である「世界寺子屋運動」、世界遺産のみならず、身近な文化や自然を未来へ引き継ぐための「世界遺産活動」を2本の柱に据え、国内各地のユネスコ協会(約300)を中心にさまざまな活動を展開しています。

これまでの活動は、まさにESDでもあったわけですが、昨年より、読売新聞社と共催で、企業、小学校、メディア、NGOの四者をつないだ出前授業「ずっと地球と生きる学校プロジェクト」を展開しています。地球規模の課題を学び、人にも地球にも望ましい発展のあり方を考え、できることから行動しようというもの。ESD-Jの活動を通じて、これまでの蓄積を生かし、企業や他団体とも連携しつつ、未来に向けて行動していきたいと思っています。

(社)日本ユネスコ協会連盟

<http://www.unesco.jp>

ずっと地球と生きる学校プロジェクト

<http://esd.yomiuri.co.jp/>



「現代の暮らしと水」マネキンをシャンプーして水の使用量を比較実験中↑



先日、「霧多布湿原トラスト」の活動を見に行ってきました。スタッフや支援者がそれぞれ、この活動を支えるために、人脈や資金、知恵、行動力、絵のセンスなど無理のない範囲で持ち寄り、楽しく活動をされている様子が印象的でした。これは、シンプルながら長く楽しく活動を続ける秘訣! 本号の編集のお手伝いも楽しくできました。(野田恵)

特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

URL <http://www.esd-j.org/> e-mail : admin@esd-j.org

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F

TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554

● 会員募集中 : 正会員 (10,000 円)、準会員 (3,000 円) 詳しくはHPをご覧ください ●



発行: NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 編集: ESD-J 情報共有プロジェクトチーム レイアウト: 河村 久美

この冊子は地球環境基金の助成により制作されています



団体正会員

- 財アジア女性交流・研究フォーラム
- 財アジア太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)
- 財オイスカ
- 財キープ協会
- 財京都ユースホステル協会
- 財日本環境協会
- 財日本自然保護協会
- 財日本野鳥の会
- 財日本ユニセフ協会
- 財日本YMCA同盟
- 財ボーイスカウト日本連盟
- 財野外教育研究財団
- 財ユネスコ・アジア文化センター
- 財ガールスカウト日本連盟
- 財日本環境教育フォーラム
- 財日本ネイチャーゲーム協会
- 財日本ユネスコ協会連盟
- 財農山漁村文化協会
- 財部落解放・人権研究所
- 国立学校法人 岩手大学
- 国立学校法人 筑波大学 農林技術センター
- 国立学校法人 北海道大学
- 学校法人 日本自然環境専門学校
- NPO 法人 いきいき小豆島
- NPO 法人 岩木山自然学校
- NPO 法人 ADP 委員会
- NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター (ECOM)
- NPO 法人 ECOPLUS
- NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
- NPO 法人 オシャンファミリ海洋自然体験センター
- NPO 法人 開発教育協会
- NPO 法人 環境市民
- NPO 法人 環境文化のための対話研究所
- NPO 法人 キーパーソン 21
- NPO 法人 くすの木自然館
- NPO 法人 グリーンウッド自然体験教育センター
- NPO 法人 国際自然学校
- NPO 法人 コミネット協会
- NPO 法人 サイカチネイチャークラブ
- NPO 法人 しずおか環境教育研究会 (エコエデュ)
- NPO 法人 自然育児友の会
- NPO 法人 自然体験活動推進協議会
- NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
- NPO 法人 白神自然学校一ツ森校
- NPO 法人 生態教育センター
- NPO 法人 タッシュ
- NPO 法人 タブララサ
- NPO 法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)
- NPO 法人 地球と未来の環境基金
- NPO 法人 地球の未来
- NPO 法人 当別エコロジカルコミュニティ
- NPO 法人 奈良県環境ネットワーク
- NPO 法人 ほっとねっと
- NPO 法人 ボランティア・市民活動学習推進センターいたびし
- NPO 法人 やまぼうし自然学校
- アースビジョン組織委員会
- ESD in 三重
- ESD 未来教育研究会
- エコテクノロジー研究会
- エコプラットフォーム東海
- OAK HILLS (オークヒルズ)
- 岡山市役所 (東京事務所)
- 岡山ユネスコ協会
- 環境 NGO アジア環境連帯
- 環境・国際研究会
- くりこま高原自然学校
- 国際こどもフォーラム岡山
- 国際理解の風を創る会
- 「心のアラスカ」〜星野道夫の思いを繋ぐ
- サスティナブル・コミュニティ研究所
- 識字・日本語連絡会
- 自然文化国際交流協会
- 持続可能な開発のための教育の10年酪農学園大学委員会 (ESD-R)
- 「持続可能な社会と教育」研究会
- 森林たくみ塾
- スリーヒルズ・アソシエイツ
- 世界女性会議岡山連絡会
- 全国学校給食協会
- 仙台いくね研究会
- 創価学会平和委員会
- ソラーエネルギー教育協会
- 地球環境・女性連絡会 (GENKI)
- 地球環境を守る会「リーフ」
- TVE ジャパン
- 帝塚山学院大学国際理解研究所
- とやま国際理解教育研究会
- 日本アウトドアネットワーク
- 日本環境ジャーナリストの会
- 日本ホリスティック教育協会
- ハーグ平和アピール平和教育地球キャンペーン
- ホールアース自然学校
- 緑の環・協議会
- 立教大学 東アジア地域環境問題研究所
- ㈩バースセンス研究所
- ㈩プラス・サーキュレーションジャパン

(2006年10月31日現在 計95団体)